

(別紙 6)

静岡県における認定鳥獣捕獲等事業者等の育成に係る
計画/評価報告

1 認定鳥獣捕獲等事業者等の現状や課題等

増えすぎたニホンジカによる生態系や農林業等への被害が深刻化し、捕獲に対するニーズが高まっている。
しかし、捕獲の担い手である狩猟者は、減少・高齢化が懸念されることから、今後の野生鳥獣の捕獲従事者を確保するため、将来の捕獲業務のビジネス化を視野に入れ、安全で効率的に捕獲する技術を持った認定鳥獣捕獲等事業者を育成する必要がある。

2 1の課題等に対応するため、本事業で実施した取組内容

実施時期	12/14、12/15、1/18、1/19
場所	静岡市（座学）、富士市（射撃）、富士宮市（フィールド）
目的	認定鳥獣捕獲等事業者において従事者として登録されている者を対象に、ニホンジカを安全かつ効率的に捕獲できる優れた技術を持ち、今後の県内のニホンジカ管理の核となる者を養成する。
対象者・講師 （人数も記載）	1 対象者（6人） 以下の要件を満たす者 ・認定鳥獣捕獲等事業者において従事者として登録されている者 ・第一種銃猟免許を取得し、装薬銃を所持する者で、狩猟免許（わな免許も含む）取得後おおむね6年以上経過している者 ・市町等が開催する上級救命講習を受講している者 ・今後、県が実施する管理捕獲（ニホンジカ）に参加する意向のある者 2 講師 (1) 座学 - ア 鳥獣保護管理捕獲コーディネーター（1人） - イ ニホンジカの生態等に精通した大学教授等（2人） (2) 射撃実習 夜間銃猟をする際の安全の確保に関する技能があり、射撃指導員の資格を保有する者（1人） (3) フィールド実習 県が実施するシカの捕獲事業で銃及びくくりわなで5年以上の実務経験を有しており、食肉利用のための捕殺後の処理技術と衛生管理についても5年以上の実務経験を有している者（1人）
内容	ニホンジカ管理のスペシャリストを育成するため、捕獲のために必要なシカの生態、個体数削減に効果的な捕獲の進め方や安全管理について、座学及び実技研修（銃による狙撃技術及びくくりわなによる捕獲技術と自動撮影カメラなどによる調査、分析技術等）を実施した。

方法	区分	内容	時間
	座学	1 静岡県が目指すニホンジカの管理と必要な知識 ・ニホンジカの生息状況及び捕獲状況 ・ニホンジカの生態 ・事業として行う捕獲 ・ニホンジカを減らすために必要な捕獲技術 ・鳥獣保護管理法 ・安全管理・救護 等	1 日
	射撃 実習	2 銃器による捕獲技術	1 日
	フイ ール ド 実習	3 ニホンジカを減らすために必要な捕獲技術と調査手法 4 捕獲技術と食肉利用について ・くくりわなによる捕獲技術 ・止めさし技術 ・食肉利用のために必要な捕殺及び捕殺後の処理技術と衛生管理 等	2 日
	合 計		4 日
評価方法	研修修了者の管理捕獲への参画		
事業費	1,730,539 円		
備考			

注 1：項目に沿って、実施した研修会等の具体的内容を記入すること。なお、「目的」には育成したい人材像も記入し、「評価方法」には目的や育成したい人材像に対する事業内容の適切性の検証方法や事業効果の測定方法等を記入すること。

注 2：事業終了後の評価結果では、各項目について、実施した結果を記入すること。

3 2 の取組に対する評価と今後の課題等（事業終了後の評価結果時のみ記入）

- ・対象者の 6 人のうち 4 人が令和 7 年度ニホンジカ管理捕獲に参加
- ・60 歳以下が半分以上だったことから、若手狩猟者の育成にもつながっている。
- ・受講者数が少ないことから、今後は募集にも力を入れていく。

注：1 の課題及び 2 の各記載内容等も踏まえ、取組が適切に実施されたか、目的に対して効果があったか等の評価を具体的に記入すること。

また、評価を通じ明らかになった取組の改善点や今後の認定事業者の育成の課題等についても記入すること。

4 その他

注：特記すべき事項があれば記入すること。